

宮崎県都市・農産物生産 新福青果

企業として、農業経営を行うために
日々の農作業データが威力を発揮

「脱サラして農業を始める」と言ったら、農家をしている父が落胆しまして……。5、6年経ったところ、その意味が良くわかりました」
新福青果の新福秀秋社長が勤め先を退職し、農業に従事したのはおよそ30年前のこと。自然にあらがれ「自信の持てる野菜を堂々と売って、『おいしかった』と評価してもらおう農業経営」を目指した。しかし、農業の現実とは「決まった休暇がとれない、給料制ではない、

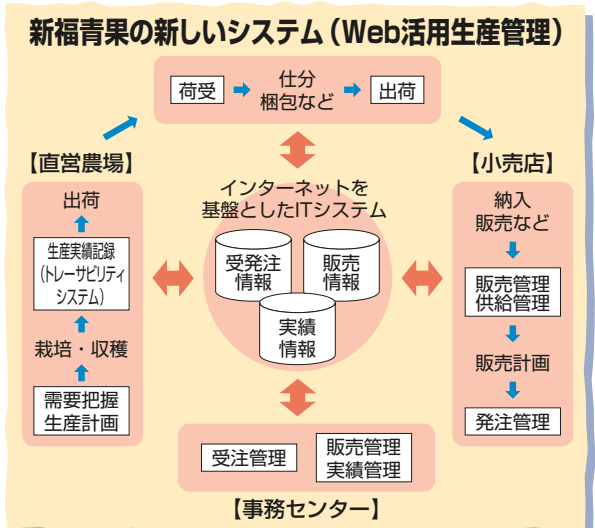
生産者に価格決定権がない」と、企業の一般常識とは異なる世界であった。父親が手放して喜ばなかったのはそんな現実があったからだ。
一時は挫折しかかったものの「意地で乗り越えて」、新福社長は理想とする企業農業へ独自路線を歩み始めた。「休日は雨天の日」という農業の常識を破り、晴れた日に家族とドライブに出かける行動様式は、なかなか周囲に理解され

なかったという。
休みは取るが、平日は人の倍働く姿勢で臨んだ新福社長の野菜づくりは軌道に乗り、サトイモ、ゴボウを中心に生産規模を拡大。根気良く営業活動を行い、直接販売の提携先も確保した。農地を増やし従業員を雇用し、現在では245箇所・作付面積97haの農地を持つまでになった。昭和62年に法人化、平成7年には農業生産法人として認可を受けている。



会社概要
農業生産法人 有限会社 新福青果
宮崎県都市市梅北町2072
創立：昭和62年
事業内容：農産物生産、加工販売。農産物に生産者名や連絡先を表記した先駆けである。食の安全・安心には積極的に取り組んでおり、適正農業規範（GAP）の認証を受けている。
URL: <http://www.shinpukuseika.co.jp/>

代表取締役 新福秀秋氏



※新福青果作成の資料より

にも貢献している。またこの端末からは、作業実績を入力し、業務日報として報告を上げられるようになっている。こうして集められる現場の情報は、消費者に対しては食の安全・安心を提供するトレーサビリティ情報として、社内では個々の従業員の業務管理や適正な評価を行う材料に、また経営者にとっては正確な原価把握に活用されている。

モバイル・サビリティと販売管理情報がつながる

そして平成17年には、IT



社内のモニターから、農地の気象情報やライブカメラの映像など、生産情報が手に取るように把握できる



出荷する野菜には、生産者表示とともにQRコードが付されている



QRコードをケータイで読み取ると、サイトで生産情報が把握できる



現場ではタッチパネル式のパソコンで作業実績を入力する

コーディネータ野上純二氏のアドバイスを受けながら、現場からの生産実績情報を受発注・販売管理・財務管理と統合するシステムを構築。「安心安全を、本物本質を本気で、農業を簡単・単純化しよう」という意味で、通称「アンボンタンシステム」（新福社長）と名づけられている。

本システムの意図を、同社のシステムソリューション担当・飯迫哲浩氏は、「現場から集まるデータを社内でもお客様からもWebで見えるようにします。また、すべての情報がつながるので情報を一元管理できます」と説明する。

サポート紹介



ITコーディネータ
野上純二氏
特定非営利活動法人
経営改革支援倶楽部
<http://www.cms-club.jp/>

ITコーディネータとして、経営戦略立案や情報セキュリティマネジメントを専門にコンサルティング活動を展開中。自治体のIT調達に関するアドバイザーも務めている。
新福青果へは、財団法人宮崎県産業支援財団の専門家派遣事業を通じて支援を開始。平成17年度のシステム構築において、情報化計画についての客観的な評価とアドバイスをを行い、プロジェクトが「IT活用型経営革新モデル事業」に採択されることに貢献した。
新福社長は「農業はまだ未開拓の分野が多くITの活用も手探りです。第三者からのアドバイスや支援によって、目覚めたり気づきかけが得られます」と指摘し、野上氏の公平な判断力に信頼を置いているという。
新福青果では、今後販売管理システムのリニューアルを計画しているが、「その際に野上さんに協力をお願いしたい」（新福社長）と期待をかける。

現場を把握し人を育てる
その情報収集にITを
規模が大きくなると、今度は別の課題が生まれてきた。「増えてきた人、モノ、金、情報をどうやってコントロールするか」（新福社長）である。農地は本社と離れた屋外にあり、従業員が各々分かれて作業をしている。したがって

そこで、「畑の見える化」にITを活用。農作業の手順をデータベース化し、作物ごとの作業段取りや使用可能な農薬等の情報を共有できるようにした。農地ではタッチパネル式のパソコンを用いて情報を参照でき、長年培ってきたノウハウを若手社員に伝えるこ